

説教余滴 2018年11月18日、三つの楽しみがある

紀州、白浜に三楽ホテルがあります。寡聞にして、その名の由来を知りません。

三つの楽しみ、どなたも思い出すのは、「飲み、打つ、買う」でしょうか。知らない、とおっしゃいますか。歌舞伎役者の世界では、この三つは芸の肥やしである、と子どもたちに言い聞かせて育てるそうです。歌舞伎に親しむ人々も、そうした気風を色濃く持つようになります。昭和の政治家の一人、群馬県の有力者、衆院の議長になりますが、「下半身に人格はない」と放言して、マスコミに叩かれ辞任しました。そのころからでしょうかマスコミが、政治家に高潔な人格を求めるようになったのは。

今では、かつては大目に見られていた役者、芸人まで倫理・道徳の高いレベルを求められ、マスコミの砲撃を受けています。

君子に三楽あり、行いが正しくて徳のある人。人格者。リーダーにふさわしい人。

徳の高い人が楽しみとすることとは、第1に、父と母と兄弟姉妹が健在であること。第2に、世の中に恥じることがないので、どんな人に対しても、自分が劣った立場にあると感じないこと。第3に、世の中に優れた人たちを教育することである。と言うことのようにです。しかし、この楽しみの中に、世の中で王者となることは含まれない、とも書かれています。出典は、孟子『尽心上の20』と言います。私自身は、この三楽にもう一つ加える必要があると考えています。それが「先憂後楽」です。有徳の君子は、「世の人が気付く前から事を憂え、心配し、事前に処置して事なからしむ。なし終え、人々が平安に過ごした後、初めて自分も楽しむ。」

岡山と東京に『後樂園』と名付けられた名園があります。それぞれ、岡山藩池田侯、水戸藩徳川侯が作りました。藩侯の思想や徳の高さが見えてきます。